

夜が更けて風をつき、  
馬を駆っていくのは誰？

魔王


THE KING OF THE DEAD


無垢な魂を持ったアベル=魔王の宿命の旅を描くシュレンドルフの壮大な叙情詩

ジョン・マルコヴィッチ主演 『マルコヴィッチの穴』

監督：フォルカー・シュレンドルフ『ブリキの太鼓』 原作：ミッシェル・トゥルニエ『魔王』みすず書房より刊行 音楽：マイケル・ナイマン『ピアノ・レッスン』  
製作総指揮：ジェレミー・トーマス、クロード・ベリ、リュウ・ライウィン 脚本：ジャン=クロード・カリエール

©Studio Babelsberg, GERMANY/Renn Productions, FRANCE/Recorded Picture Company, GREAT BRITAIN

 presented by NIKKATSU CORPORATION

Distributed by CABLE HOGUE CO., LTD. 

ドイツが生んだ巨匠フォルカー・シュレンドルフ監督が全世界を震撼させた『ブリキの太鼓』(79年・カンヌ映画祭グランプリ/アカデミー賞外国語映画賞)から20年余、さらに壮大なスケールで再び贈る、美しく、哀しい、そして最も残酷な叙情詩、それが『魔王』である。

1943年、スターリングラードの攻防戦もむなしくドイツ軍はソ連軍に敗退。そんな激動の時代に、馬にまたがり3匹のドーベルマンを従えて、明日のドイツ兵(少年達)を捜し求めるフランス人アベルの姿があった。彼はいつしか“鬼(ogre)”の名で知られるようになる。

数奇な運命にもあそばされるアベル。そして彼は、自らの行為は子供たちを救うという信念にとらわれていた。

やがて連合軍が少年たちの前に迫ってきた時、真実に向かって突き進むアベルの姿があった。

原題の“OGRE”とは人食い鬼を意味し、子供達が読む絵本の中の悪魔として親しまれている言葉。シュレンドルフ監督は“OGRE”とは聖と悪を持つ存在であり、つまり誰もが皆持っている心の二面性なのだ」と語っている。

『ブリキの太鼓』は醜い大人になることを拒み、自らの成長を止めた少年が主人公であったが、この作品の主人公は子供の心のまま大人になってしまった男。彼が運命に翻弄されながら戦時下の東プロシアの森を“お伽話の旅人”のようにさ迷い、したたかに生き抜く姿が優しさと思議なユーモアに包まれパワフルに描かれている。

原作はミッシェル・トゥルニエの代表作『魔王』(みすず書房より刊行)。主人公アベル役は『マルコヴィッチの穴』そして最新作『シャドウ・オブ・ヴァンパイア』など、演技派俳優として人気、実力ともに昇華させてきたジョン・マルコヴィッチ。この映画はマルコヴィッチという存在そのものが始まりとなっている。とシュレンドルフに言わしめるほどのハマリ役となった。

この作品は、故ルイ・マル監督に捧げられている。シュレンドルフ監督は16歳でパリに住み、59年(20歳)からフランスのヌーベルヴァーグ作品(『鬼火』去年マリエンバードで『いぬ』等)の助監督として活躍した。『魔王』はルイ・マル監督の『ルシアン青春』『さよなら子供たち』との繋がりを想記させられる。

監督: フォルカー・シュレンドルフ 原作: ミッシェル・トゥルニエ『魔王』(みすず書房より刊行) 音楽: マイケル・ナイマン  
製作総指揮: ジェレミー・トーマス、クロード・パリ、リュウ・ライウイン 脚本: ジャン=クロード・カリエール

キャスト  
アベル: ジョン・マルコヴィッチ カルテンホーン伯爵: アーミン・ミュラー・スタール フォレスター官長: ゴットフリート・ジョン  
ネッタ: マリアンネ・セーグブレヒト ヘルマン・ゲーリング元帥: フォルカー・シュバングラー



アベルは、少年愛に駆られたわけでもなければ、ましてヤバチスのイデオロギーに共感したわけでもない。ただ、子供をかつくという宿命に改めて目覚め、それを貫徹したまでのことなのだ。宿命に抗うのではなく、宿命を自らのものとして受け入れ、愛すること。最後にコダヤの子どもをかついて沼地に沈んでゆくアベルの姿は、そいうニーチェ的「運命愛」の形象にほかならない。

— 浅田 彰

アベルは運命と一体化して“ユング心理学というある種の元型”に取り憑かれている。だから、アベルは彼自身というよりも、大きな何かと動いていると感じている。向こうから運命がやってくると思っている。重い映画だと思いましたが、僕は好きでした。

— 鏡リュウジ

“騎馬戦”をしている場面から始まり、最後、アベルがコダヤ人の少年を肩に背負って森のほうに去っていくところで終わるこの映画は「無垢という重荷」をめぐる物語ともいえるかもしれない。成長を拒絶した少年の目テラス・ホラーを描いた『ブリキの太鼓』の監督ならではだろう。

— 川本 三郎

初秋、ロードショー!

特別鑑賞券1,300円(税込)

当日一般1,800円/大高1,500円/中小学生・シニア1,000円(税込)

ミッシェル・トゥルニエの本を持って来たら  
一般: 1,300円でご入場頂けます。

池袋駅西口・東武隣接・メトロ有楽町線池袋駅8F  
シネ・リーブル池袋  
CINE LIBRE IKEBUKURO  
03(3590)2126



劇場窓口および都内プレイガイド、チケットぴあにてお買い求め下さい。当劇場窓口にてお買い求めのお客様には、もれなく特製ポストカードをプレゼント!